

## 2019年度 一般入学試験（後期日程） 総合文化学部 社会文化学科 出題の意図

### 1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
19	8

### 2. 社会文化学科 アドミッション・ポリシー

社会文化学科は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通りに具体化し、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めます。

1. 沖縄を理解するための知的好奇心と知的探求心をもつ人物。
2. 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物。
3. 沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力を有する人物。
4. 自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め考え判断し、主体的に行動することができる人物。
5. 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組める人物。

A O型入学試験では、上記の5項目のうち、特に1、4、5の各項目を重視します。

具体的には、

○項目1については、「知的好奇心」や「知的探求心」を、大学生活の中でどのように発揮しようと考えているのかを説明できることを求めます。

○項目4、5については、これまでの実績を具体的に説明できることを求めます。

### 3. 出題の意図

社会文化学科は、学位授与方針において、「比較文化的観点に立脚し、フィールドワークに基づいた南島地域（沖縄及び周辺地域）研究の能力」の習得と、「地域理解能力と社会的コミュニケーション能力に長けた、問題解決型の人物」であることを学位授与の条件と定めており、その実現に向けて、入學段階で求める資質・能力を、上記の入学者受入方針の通りとしています。そのポイントは「沖縄」を理解するための好奇心や探究心を持ち、自らの問題意識に基づいて主体的に情報収集できることにあります。すなわち、沖縄に関する知識量の多寡だけを重視しているのではなく、地域に対する関心を持ち、課題をみつけ、その課題を解決するために自ら行動できることを重視しています。

そこで、一般入試（後期日程）では、高校における地域学習の課題という場面設定をしたうえで、自らの地域に対する関心、情報収集の主体性、自らの地域の事象に対する知識や理解度等を表現してもらう問題によって、上記のような資質・能力を確認することを意図しました。

#### 4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

評価に際しては、問題文で求めた①自らが暮らす地域の文化現象を認識しているか、②なぜその文化現象をとりあげたかについての理由が明確か、③文化現象を理解するための情報収集の手段を把握しているか、④自らの地域の文化現象をどのくらい理解しているか、の4点に加えて、字数条件の遵守や回答文全体の論理性などを観点としました。

社会文化学科では地域に対する関心や地域を理解しようとする意欲が重視されます。したがって、日常から、沖縄や自らの地域に対して関心をもって、情報を収集し、自らの意見を構築することが重要です。